

「総義歯難症例を成功させる人工歯配列テクニック」
～CAD/CAM デンチャーの可能性～

小久保 京子

総義歯補綴において、義歯の吸着・維持・安定の確保は成功に導く絶対要素として認識されています。これらの要素を確実に総義歯製作に取り入れていくには、歯科医師・歯科技工士間の吸着義歯に対するトレーの設計や人工歯配列位置・咬合などの共通認識とお互いの仕事領域の理解が必要となります。

また、昨今の総義歯患者の高齢化に加えその生態多様性が難症例という現実となって総義歯製作をより難しいものになっています。特に、CLASS 2、CLASS 3の顎間関係、フラビーガム、高度な顎堤吸収、顎関節の異常、極度の咬合力の低下などの問題を複合的に抱えるケースでは事前の歯科医師による口腔内診断、咬合器にマウントされた模型からの的確な観察が必要となります。

このような難症例に於いては、歯科医師・歯科技工士ともに各ステップの作業も変える必要があります。メンテナンスやリカバリーの手法を折り込みながら製作していく事が大事になります。これらの手法を、症例を通して一緒に考えたいと思います。

最後に、今日のデジタル化が進む歯科界における CAD-CAM 義歯の可能性についても実際の症例を通してそのプロセスと一緒にご説明したいと思います。